

くまき 貞一	公明	個人	八
--------	----	----	---

(質問の事項及び要旨)

- 一 フードドライブの活用について
- (一) フードドライブの実績について
- (二) 北区社会福祉協議会との連携について
- (三) 更なる周知の必要性について
- (四) 食品を有効に活用するための仕組みづくりについで
- (五) 受付窓口の増設の方向性について

【要旨】

フードドライブが令和三年七月一日より開始された。受付窓口は田端の富士見橋エコー広場館と北区清掃事務所となっている。貧困、飢餓ゼロなどの社会課題対し十のゴールが設定されているSDGs(エスディージーズ)で、フードドライブは複数の課題に貢献する活動である。さらには、食品ロスを減らすだけでなく、他の社会課題解決の一步にもつながる。一方で、家庭から食品を寄付するという特性上、寄付される食品類が偏ってしまうデメリットもある。

くまき 貞一

公明

個人

八

一 (一) (二) (三) (四) (五)

はじめに、フードドライブにかんするご質問について
順次お答えいたします。

まず、フードドライブの実績についてです。

区では、「北区食品ロス削減計画」の策定とあわせ、
フードドライブの仕組みを構築するため、
本年七月から試行事業を開始しました。

その結果、十月までの四か月間で三百十六品、
総重量にして百八十五・九キログラムの食品が
集まりました。

内訳は、菓子類が最も多く、次いで、飲料、
レトルト、乾麺、缶詰、米などとなっております。
今回、これら食品のうち二百九十五品を、
延べ二十二のこども食堂に提供できたことから、
約百七十キログラムの食品ロス削減に
つなげることができました。

次に、北区社会福祉協議会との連携です。

(後頁へ続く)

(前頁から続く)

区のフードドライブ事業は、原則、家庭における未利用食品で賞味期限まで二カ月以上のものを受け入れることとしております。

食品の受取については、子ども食堂、フードパントリーに希望調査を行い提供しています。受取希望がない食品については、翌月以降も再度周知し、それでも希望がなければ有効活用を図るため北区社会福祉協議会へ提供することとしています。

また、事業者からの提供希望があった場合は、北区社会福祉協議会をご案内するなど、連携して食品を受け入れることで食品ロス対策やごみ減量だけではなく、地域福祉の充実など社会課題の解決にも繋がるよう取り組んでいます。次に、フードドライブのさらなる周知の必要性についてです。

(後頁へ続く)

(前頁から続く)

フードドライブを知っていただくことは、

区民との協働による資源循環型社会を

推進していくうえで大変重要であり、

SDGS (エス・ディ・ジーズ) への区民の具体的な参加促進に
つながるものと考えております。

そこで、エコー広場館の活用をはじめ、

環境展や消費生活フェア、さらには地域のイベントなど
様々な機会を捉え周知に努めているところです。

また、十月から開催している清掃協力会の

地区別懇談会において、

プラスチックの資源化とあわせて

食品ロスの削減をテーマに説明を行っております。

引き続き、北区ニュースやホームページ、

SNS (エス・エヌ・エス) などの広報媒体も活用し、

さらなる周知に努めてまいります。

次に食品を有効に活用するための

(後頁へ続く)

(前頁から続く)

仕組みづくりについてです。

集まった食品を有効に活用していくためには、

ご提案のとおり様々なネットワークを

構築していくことが効果的であると認識しております。

本年十月に策定した

「北区食品ロス削減推進計画」においても、

フードドライブの推進体制の構築には、

大手フードバンク団体等、民間団体との連携を

検討するとしていることから、

他自治体の事例などを参考に効果的な方策を

検討してまいります。

次にフードドライブの受付窓口の増設の

方向性についてです。

現在、北区清掃事務所と富士見橋エコー広場館の

二か所を受付窓口としておりますが、

「北区食品ロス削減推進計画」の

パブリックコメントにおいても、

くまき 貞一

公明

個人

八

受付場所や受付方法の拡充について
ご意見をいただいております。

区民の利便性や食品の提供状況などを見極めながら、
今後の実施手法についての検討を進めるとともに、
未利用食品を発生させないような取組みについての
周知と啓発にも努めてまいります。

くまき 貞一	公明	個人	八
--------	----	----	---

(質問の事項及び要旨)

二 ひきこもり支援について

(一) 専用相談窓口の設置について

【要旨】

地域社会の中で孤立しているのは本人だけではなく、家族も同様で、自分達の抱えている困難について誰にも相談できず、困惑の度を深めている場合がある。

支援という観点から考えると、ひきこもりの長期化は家族関係のねじれ、就学・就労などの社会復帰の糸口の減少などを招き、回復をより一層難しくする傾向があると考ええる。多くのひきこもりが十代から二十代前半に生じていることを踏まえれば、この年代の人々やその家族がアクセスしやすい支援が必要であると考ええる。

愛知県豊明市では市役所内に相談窓口を設置し、相談員二名が常駐するほか、月に二回医療機関から派遣される専門職が相談に対応している。

まずは、北区において、本人やご家族が相談できる専用窓口の設置が必要と考えますが、区の見解をお聞かせください。

くまき 貞一

公明

個人

八

二(一)

次に、私からはひきこもり支援について、
順次お答えします。

最初に、専用相談窓口の設置についてです。

北区では、ひきこもりにかんする相談窓口としては、
健康推進課の各健康支援センターが窓口になり、
ひきこもりにかんする相談に対応していますが、
当事者や家族が抱える悩みは、
就労、介護、生活困窮、将来への不安など
多岐にわたることから、相談内容に応じた支援を
適切に受けることができるよう、
必要に応じて、関連部署の窓口や、家族会などの
関係機関に繋いでいます。
今後、ひきこもり関係課連絡会の中でも、
関係部署の更なる情報共有や、
適切な支援に繋ぐ取組について検討してまいります。

(後頁へ続く)

くまぎ 貞一

公明

個人

八

(前頁から続く)

ひきこもりにかんする専用窓口の設置については、
相談内容に応じた、
様々なケースに対応することができる
職員のスキル向上や、
人員体制などの課題があることから、
他の自治体の先進的な取組などについて
研究してまいります。

くまき 貞一

公明

個人

八

(質問の事項及び要旨)

二 ひきこもり支援について

(二) ひきこもり相談会について

【要旨】

七月八日と十一月四日に開催された二回目、三回目のひきこもり相談会の相談件数について伺う。

また、三回開催した上で、ひきこもり相談会の効果についての区の見解は。

相談会は定期的を開催することが重要であると考えますが、今後の日程についてどのようなようになっているか。

くまき 貞一

公明

個人

八

二(二)

次に、ひきこもり相談会についてです。

本年、七月八日と十一月四日に開催した

ひきこもり相談会の相談件数は、

相談枠がそれぞれ五件に対して、七月八日が三件、

十一月四日が五件でした。

なお、十一月四日は、十三件の申込がありました。

相談枠を超えた八件については、

個別に相談に応じ、必要な支援に繋がっています。

ひきこもり相談会の効果につきましては、

これまで、誰にも相談することができなかった

家族の方(かた)にとって、

身近な地域で相談ができるようになったことや、

関係部署が合同で、相談会を行ったことで、

適切かつ迅速に当事者や家族の状況に応じた、

相談支援に繋げることができ、

自立に繋がる第一歩になったものと認識しております。

(後頁へ続く)

くまき 貞一

公明

個人

八

(前頁から続く)

なお、北区のひきこもり相談会については、今後も、ひきこもり関係課連絡会で協議し、改善や工夫を加えながら、継続的に実施していく予定です。

令和四年一月には、東京都と連携したひきこもり相談会の開催を予定しており、東京都の専門の相談員のノウハウを活かした相談を行うとともに、相談後は、今後の支援内容について、区の担当職員と確認を行う機会を設け、区の職員の支援スキルの向上にも繋げてまいります。

なお、東京都と連携したひきこもり相談会の開催については、所管委員会でご報告いたします。

くまき 貞一

公明

個人

八

(質問の事項及び要旨)

二 ひきこもり支援について

- (三) LINEなどを活用した相談窓口の設置とひきこもり実態調査について

【要旨】

ひきこもり当事者の方が相談窓口まで足を運ぶのは、ハードルが高いと考えるので、LINE等を活用した相談窓口を設置すべきと考えるが、区の見解は。

その上で、誰にも相談できずに苦しんでいる方を置き去りにしないために、北区としてひきこもり実態調査を行うべきと考えるが区の見解は。

二(三)

次に、ラインなどを活用した相談窓口の設置とひきこもり実態調査についてです。

ラインなどを活用した相談窓口については、相談を利用しやすくする方法の一つであると認識しています。

実施にあたりましては、職員などの実施体制、個人情報の取扱いにかんする安全性の確保なども必要なことから、

今後の検討課題とさせていただきます。

ひきこもり実態調査につきましては、地域における支援対象者の概数を把握することにより、支援体制や、支援内容を検討する際の基礎になるものと認識しています。

現在、ひきこもり関係課連絡会で、検討を始めておりますが、全件を把握することが困難な中で、

(後頁へ続く)

くまき 貞一

公明

個人

八

(前頁から続く)

調査対象や方法について、十分に調整をする必要があると考えています。ひきこもりの実態調査につきましても、他の自治体の取組も参考にしながら、引き続き、ひきこもり関係課連絡会において検討してまいります。

くまき 貞一

公明

個人

八

(質問の事項及び要旨)

三 高齢者の生きがいづくりについて

- (一) ことぶき大学の近年の受講者数と目的について
- (二) 学んだことを地域に還元することについて

【要旨】

高齢者が、毎日をより充実させて暮らす方法の一つとして、注目されるのが「学び直し」である。

新潟県では、学び直しの機会として、概ね六十歳以上を対象に、「シニアカレッジ新潟」を開講している。

学び続けることで、人生一〇〇年時代を迎え、心身の健康をもたらず大きな力となると期待される。

北区でも、ことぶき大学を開催しているが、近年の受講生数と区として目的をどうとらえているか問う。

「シニアカレッジ新潟」のように、ことぶき大学を展览展示させ、学んだことを地域に還元することで、生きがいづくりを実践し、健康寿命の延伸を図るべきと考えるが見解を問う。

三(一)(二)

私からは、高齢者の生きがいづくりにかんする、質問にお応えします。

はじめに、ことぶき大学の近年の受講者数と目的についてです。

ことぶき大学は、六十歳以上の区民を対象として、高齢者が心身ともに健康で充実した生活を送るために、必要な学習機会を提供することを目的として、健康、経済、社会、歴史、文化などをテーマとして開催しています。

コロナ禍のなか、「昨年度は中止」、「今年度は動画配信方式」としましたが、例年、六百名の定員を超える応募をいただいています。毎年、十回にわたる講座を開講しており、うち一回以上、参加した方の受講者総数は、平成二十九年度、六百二十七名、平成三十年度、六百三十八名、

(後頁へ続く)

(前頁から続く)

令和元年度、七百三十六名となっています。

次に、学んだことを地域に還元することについてです。

北区教育・子ども大綱では、

基本方針の一つに、「つなぐ・継承と循環」を掲げ、

「教えられた者が教える側へ、

世代を超え、生涯を通じた学びのつながりを創造する」という方針を示しています。

人生百年時代を見据え、すべての人が生涯を通じ、

自ら設計し、学び続け、

学んだことを生かして活躍できるよう、

多様な学習機会を提供することが、求められています。

生きがいとともに創り、高め合うためには、

必要な知識・技能の習得、

知的・人的ネットワークを構築するとともに、

健康の保持・増進に資する生涯学習を推進し、

(後頁へ続く)

くまき 貞一

公明

個人

八

(前頁から続く)

学びと活動の循環を形成することが、重要と考えています。

そのため、区長部局とも連携し、

「リカレント教育」の視点も盛り込みながら、

文化センター等で学んだ知識や体験を

地域活動につなげ、社会に還元していくことにより、

区民の学習成果を活用する場の拡充や、

学習成果を活かし合う仕組みを構築してまいります。

くまき 貞一

公明

個人

八

(質問の事項及び要旨)

四 田端・西ヶ原地域の諸課題

(一) 田端文士村について

【要旨】

東京には、田端文士村、馬込文士村、

阿佐ヶ谷文士村、落合文士村の4つの文士村がある。

この4つの文士村で、親睦を深めるために

「文士村サミット」を開催し、これを核として

新宿区漱石山房記念館、文京区森鷗外記念館、

台東区樋口一葉記念館と連携を深めることが、

田端文士村を盛り上げるために重要であるが、

区の考えはどうか。

四(一)

次に、田端・西ヶ原地域の諸課題について、
順次、お答えします。

まず、田端文士村についてです。

現在、北区では、ご紹介いただきました

四つの文士村のうち、田端文士芸術家村から移住した

室生犀星(むろうさいせい)や

萩原朔太郎(はぎわらさくたろう)の縁による

馬込文士村のあった大田区や

芥川龍之介の師である夏目漱石の縁から

落合文士村のあった新宿区と資料の融通や散策会、

ユーチューブ発信などの交流を行っています。

他にも、久米正雄の出生地である福島県郡山市や

菊池寛の出生地である香川県高松市、

室生犀星の出生地である石川県金沢市、

萩原朔太郎の出生地である群馬県前橋市などとも、

資料の融通などの交流を行っているところです。

(後頁へ続く)

(前頁から続く)

令和四年度には、これらの交流を発展させた形で、
没後八〇年を迎える萩原朔太郎の関連で

「萩原朔太郎大全(はぎわらさくたろうたいぜん)」を
共通タイトルとして、

田端文士村記念館をはじめとした関係する文学館等で
連携した企画展を開催する予定です。

今後も、田端文士芸術家村を介した
様々な自治体との交流を継続していくとともに、

ご提案いただきました四つの文士村や
これを核とする他の文学館等との

親睦や連携を深めるための取り組みの可能性についても
検討を行い、

田端地区における文化のまちづくりやその発信に、
一層努めてまいります。

くまき 貞一

公明

個人

八

(質問の事項及び要旨)

四 田端・西ヶ原地域の諸課題について

(一)「のらくろ」のデザインマンホールについて

【要旨】

東京都では、デザインマンホールの設置に取り組んでおり、都が支援したデザインマンホールの「マンホールカード特別版」を配布している。このマンホールの見学やカード収集のため、内外からの来訪者があり、他施設の来客数増加等の波及効果も期待されている。北区には、赤羽と田端にデザインマンホールを設置している。

十月二日、田端文士村記念館にて「のらくろ」のマンホールカードの配布を開始したが、どのような反響があったか。今後デザインマンホールを増やし、地域の活性化を図っていくべきと考えるが、区の見解は。

また、デザインマンホールのモチーフは、キャラクターが多いが、土方歳三をモチーフにしたものもある。北区でも、渋沢翁や近藤勇などゆかりの人物のデザインマンホールを設置すべきと考えるが、区の見解は。

四(二)

次に、デザインマンホールに関する質問について、お答えします。

北区においては、令和元年度に、赤羽地区と田端地区に、デザインマンホールを設置しました。

田端地区のデザインマンホールにつきましては、地域ゆかりの漫画家 田河水泡氏の「のらくろ」をモチーフにしておりますが、

マンホールカードの配布を開始した十月二日には、約七百人の方々が田端文士村に来館しました。

そして、配布開始から約一か月半が経過し、約四千枚が配布された現在でも、連日マンホールカードを求めて来訪する方が途切れない状況にあります。

改めて、デザインマンホールの設置と、マンホールカードの配布がもたらす効果につきましては北区への来訪者の増加はもとより、

(後頁へ続く)

(前頁から続く)

これまで関心の薄かった方々に対する

田端文士村記念館の積極的なPR、

そして各種メディアで取り上げられることで、

区のイメージアップにも大きく寄与するものと

認識しております。

引き続き、デザインマンホールを活用した

地域の活性化に向けて、積極的に展開してまいります。

なお、西ヶ原や滝野川における

地域ゆかりの人物をモチーフにした

デザインマンホールにつきましては、

その人物の事績や魅力を通して、

北区のPRにも繋がる取組みと考えていますが

肖像の取扱い等の課題もありますので、

慎重に検討してまいります。

くまき 貞一

公明

個人

八

(質問の事項及び要旨)

四 田端・西ヶ原地域の諸課題について

(三) 飛鳥山公園の集客について

【要旨】

十一月十四日放映の大河ドラマでは、飛鳥山公園内の
渋沢邸が描かれた。ドラマ放映に伴う集客効果・経済波
及効果は当年のみの一過性のものであり、翌年以降の反
動減が見られる。放映時は、自治体や観光推進組織等の
キャンペーンやマスコミの特集等で情報発信が活発化
し、集客に貢献するが、放映後は地域の観光推進主体の
解散で情報発信が低下し、マスコミの関心も他に移る。
その結果、人々の記憶から当該地域の印象が薄れ、観光
需要の低下をもたらす。岐阜県可児市では、大河ドラマ
館跡地を活用して、市の歴史や文化など魅力発信のため
の拠点施設「明智荘の館」を開館した。大河ドラマで盛
り上がった機運を逃すことなく、渋沢史料館との連携を
深め、渋沢翁と一体化した公園の整備を進め、飛鳥山公
園の魅力向上を図るべきと考えるが、区の見解は。

四(三)

次に、飛鳥山公園の魅力向上についてお答えします。

飛鳥山公園は、花見の名所や憩いの場として、多くの方々に親しまれておりますが、

大河ドラマの舞台となることから、更なる注目を集めることとなりました。

これを機に、北区飛鳥山博物館内に

大河ドラマ館を設置して、全国からの多くの来訪者に飛鳥山と北区の魅力を発信しております。

ドラマの放映終了とともに

大河ドラマ館は閉館しますが、

公園内には、渋沢史料館、青淵文庫や晩香廬、

さらには紙の博物館など、渋沢翁の事績を学び、息吹を感じられる施設があります。

これらの施設は、ドラマ放映後も

「渋沢翁が暮らした飛鳥山」を

発信し続けることができる貴重な財産ですので、

(後頁へ続く)

(前頁から続く)

引き続き、渋沢史料館等と連携して、魅力発信、更には地域の活性化の拠点として活用してまいります。

また、大河ドラマ館の設置とあわせて、公園内の園路や案内板、トイレ等の設備等について「おもてなしの整備」を実施したところですが、今後、P・PFI（パーク・ピーエフアイ）や指定管理者など、「民」の力を活用した、新しい公園の管理運営も進めてまいります。

大河ドラマで盛り上がった機運を、渋沢翁が肖像となる二〇二四年の新紙幣発行にむけて、庁内はもとより区と関係団体が、公民一体となって益々高めていくとともに、飛鳥山公園のより一層の魅力向上に努めてまいります。